

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '88 8月号

*** 8月の行事 ***

8月

4 木	入門講座 "セミのぬけがら調べ"
4 ~ 5	入門講座 "中学生のための天文教室"
5 金	史跡見学会(三殿台考古館)
6 土	古文書講読会
7 日	特別展講演会 "相模川流域の弥生時代"
9 ~ 11	サマーセミナー(七国荘)
11 ~ 12	天体観察会(七国荘)
12 ~ 13	" "
13 土	石仏を調べる会
18 木	入門講座 "セミのぬけがら調べ"
19 金	星を見る会 "月と土星を見よう"
20 土	古文書講読会
23 火	自由研究相談会(科学教室)
24 水	入門講座 "セミのぬけがら調べ"
27 土	石仏を調べる会
28 日	相模川を歩く会

- ・寄贈品コーナー: 天文部門
(8/1 ~ 9/20まで)
- ・プラネタリウム: 真説 "火星物語"
(7/16 ~ 8/28まで)
- ・特別展: 相模川流域の弥生時代
(7/20 ~ 8/30)

○星を見る会

望遠鏡で月や土星を観察したり、夏の星を見ます。

8月19日(金) 月と土星を見よう 2

いずれも午後6時半~8時まで。参加は自由です。博物館の科学教室にお集まりください。

当日、曇った場合は中止します。

○自由研究相談会

歴史、民俗、考古、生物、地質、天文の各分野の自由研究の相談にお答えします。

日時 8月23日(火) 10時~15時

場所 博物館科学教室

特別相談員(地質)

8月23日 平田大二氏(神奈川県立博物館)

●9月自然観察会

日時: 9月4日(日) 雨天中止

場所: 藤沢市江の島植物園と江の島海岸

内容: 植物園の見学と、海岸の動植物の観察

申し込み: 8月25日(木)までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。

●体験学習 "裏打ち"

日時: 9月11日(日)

場所: 博物館科学教室

内容: 簡単な裏打ち技術、技法に慣れる

申し込み: 8月29日(月)までに往復ハガキで。抽選で10名。

石仏 -その形と心-

石仏を調べる会見聞記

13時45分、自転車に乗っておひとかた到着。やがて小さな話声がしてお二人連れが現れ、小川学芸員も見えて、では始めましょうかのお声がかかる。どうするのかと見ていたら、さつさと境内を出てゆかれる。アレツ寺城はあちらにも有ったのかと慌てたが、道一本へだてて題目塔があり、お水鉢に稻荷の祠まであるのであった。まず調査カードに全体像がスケッチされ、ついで刻まれた文字を読み、それからメジャーを取り出して縦・横・厚みが計測される。題目塔正面は南無妙法蓮華經の七文字が、末を勢よく跳ねあげたひげ文字で刻まれていた。両山賜紫／日章、その下に蓮の花かと見まがう花押がつく。日蓮宗芳沢山蓮昭寺の第23世日心が建てたもの。施主は当所二宮善右衛門。いつかというと宝暦3癸酉年2月である。即ち1753年と教えられた。235年前ではないか。

寺の横から墓地にまわる。芭蕉のゆれる葉影に代々の住職がひっそりと鎮まっていた。どれも苔に覆われているので、私などには読みとれない。するとカバンから小さなピンを取り出し白い粉を一振り握ると、文字の上になすった。たちまち文字が浮かび上り、さっと読み下して記録にとられた。白い粉はカタクリ粉であった。読みとて書きおわると、今度はブラシが登場して、その上をきれいに掃きとってしまう。次はメジャーで、縦に伸び横に伸べられてその形を計測する。それはもう、傍から口出す間なしの鮮やかな働きであった。メジャーとカタクリ粉とブラシ、これが会の三種の神器なのだ。こういう発見は楽しい。

その先、歩数にして20歩ぐらいの所に高さ1米余りのひさごに似た碑は、畜靈塔であった。同

じ囲いに、愛らしい地蔵仏が並んでいる。昭和12年11月27日の建立で、法清童子と刻んである。地蔵仏は錫杖を手に赤子を抱き、2人の子を裾にすがらせていた。秋田の婆さまの教えによれば、お地蔵さまはとりわけ幼ない子をおかばいくださる由で、その里の万松寺には教えの通り、御衣の裾御袖のうちから、小さな顔をのぞかせたお地蔵さまがいらっしゃる。蓮昭寺にこの地蔵仏を建てられた人の胸うちは知らぬが、豊一枚ほどの囲いの中に、手をのばせば届く間柄で、畜靈塔と地蔵仏を並ばせた底の心は、偲ばれよう。猫の子であれ犬の子であれ、例え牛馬、豚であれ、この世にたった1つの命を受けて生れ、人の友として助けとしてまた糧として、日夜を共にしたもの達である。後生安かれと祈る気持に変りのあろう筈はない。

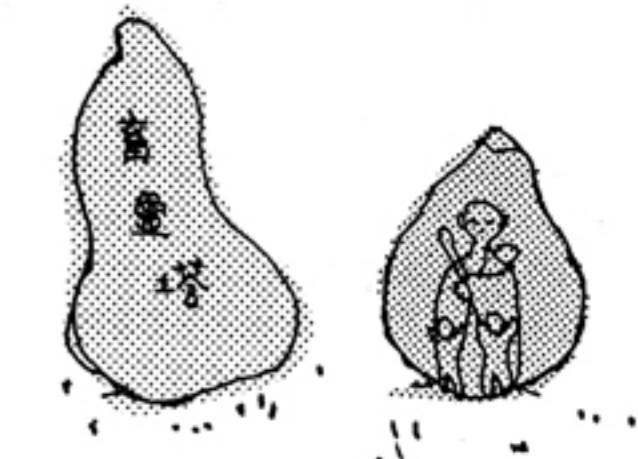


小鳥達の足溜りに、幼ない人達の遊び相手になるやも知れず、長じては俺ら方の畑の中に、蓮の花つけたでっかい石塔があつたっけが……と追憶の風景の中に生き続けるかも知れる。そう思えばか、大僧都は野の風におもてを吹かせながら、この境涯を案外めでていらっしゃるようにも見えてきた。

片岡山少林禅寺は、そこからじきだった。ここは六地蔵さまが調査の対象だった。“法性、宝性、地持、法印、鷄頭、陀羅尼の地蔵仏”とそれにお名があることを初めて知った。スケッチしてメジャーが伸び縮みしたのは勿論である。お背丈60cm余りのふくぶくしいお顔立ちは、御所人形を想わせる。そこから鉛川添いの八坂神社に抜け、文字を刻んだ石碑を写して終会した。



話をもどそう。蓮昭寺の畜靈塔と地蔵仏、畑中の石塔を見たときの、心打つ優しさや秘やかな魂の通い路に、振りかえって思いをこらすと、石仏を通して今に足りぬ心の在所を問い合わせ直す要がありはしないかと、思っていた。今風にいえば、先人が刻み埋めこんだ無限の情報(山田宗睦)が歴史である。したがってすつきりはつきりと合理、科学の尺度をあててこれを捨てあれを捨うのではなく



く、どう受け取りなにを解するかこそが、のちの一大事である。隠された営み、割りきれぬ思ひの影のない世界は、余りにうすっぺらすぎる。

かつて石には神がこもり、靈力を持つと信じられていたという。一塊の重軽石を抱いて神の意を卜した話を知る人は多かろうし、大磯の虎御石はあらたかな靈験をもって今に盛えている。その故に伊邪那岐は黄泉平坂に石を置き、人もまた他界との境に石を置いた。ならばその初め、死者の名を石に刻み仏のお姿を石に彫る振舞いには、常ならぬ恐怖を持ったに違いない。それを越えさせたものは、ひたむきな胸の思い身を切るような願いではなかったか。石を彫る時は施主の心意にかなうよう努め、技でこたえたいと話してくれた老石工は、真鶴の人だがと前置きされて、「お姿を彫る時は、まず身を清めてからと聞いています」と証してくれた。頼む人頼まれる人の、これが変わぬ心構えなのだった。昔人が持った石信仰への共感は難かしくても、1つの石に託された心の道筋は、覚えていたいものである。

(和田)

星のひろば

三階展示コーナ

平塚市博物館の特長の一つはプラネタリウムがあり、天文分野の活動がされている事です。

天文というと天文学とイメージが重なり、星の研究をする分野、という概念がつきまといますがむしろ最新の宇宙科学を理解したり、天文現象を体験するのに必要な情報と、場の提供のために調査活動を進めています。

天文という分野は地域をフィールドとする地域型の博物館には直接関係がないのではないか、という疑問をいだくかたもおられます。地域にこだわらずに外から地域を見つめる視点を持つ、という利点があります。博物館の他の分野がそうであるように私たちを取り巻く空間を科学的にとらえ、そのなかに起こる現象との結びつきをわかり易く伝えるための活動を展開しています。

また、大きく見れば、わたし達は宇宙とわたし達の住む場との境界がない以上、宇宙とのつながり

りを考える事も必要な事ではないでしょうか。

星のひろばという空間は、プラネタリウムと展示空間としての星のひろばに分けられます。

プラネタリウムでは、宇宙を表現できる情報媒体として星座神話から宇宙の最新像、また、地球外からわたし達をとりまく環境をとらえ、未来を考える場をめざします。

星のひろばでは、プラネタリウムと相補いあう情報提供を考えています。特にプラネタリウムは扱いにくい、地域に密着した天文情報、宇宙の定量的なことから入れた情報バンク、解き明かされつつある宇宙の姿を美しい写真や映像で紹介するコーナーを設けています。

この星のひろばという空間を、私たちをとりまく大きな環境である宇宙について考え、接する場として考えていいきたいと思います。(原)

